

<実践報告>

保育士育成のための学外コンサート活動の試み③

—未就学児を主対象として—

桂山 たかみ 平松 喜代江 田中 雅章

要旨

本研究は保育士養成校で開設された専門ゼミナールの地域連携プログラムにおける実践活動において、地域の対象者別に配慮したコンサート活動の成果を検証することを目的とした。この取り組みは明確な教育的意図を持ち、理想の保育になるため必要な技能と知識を学ぶ活動である。このコンサート活動の実践によって参加した学生の楽器演奏の実践力および保育者として資質の向上を目指した。

今回の実践活動は、三重県三重郡菰野町にあるB幼稚園にて行った。調査対象者は、B幼稚園に通園する年長の子ども達と同園で勤務する保育者である。調査方法は30分のコンサート後に年長の子ども達へ学生が聞き取り調査を行った。保育者へはアンケート用紙を園の責任者に委託し、任意にて回答を得た。今回は園行事である誕生日会のイベントの一つとして行われた。園の未就学児がコンサートを楽しめるようにコンサート時間、選曲、曲順、環境設定に配慮したプログラムの成果がこの調査結果として表れている。学生が主体となってコンサートの企画・運営を行うにあたり、音楽的知識と技能そして表現力が不十分ながらもコンサート運営のノウハウを習得することができたと評価する。

学生はコンサート活動の3回目であり、自分自身のことだけでなく集団の中で自分の役割を考えながら実践できるよう、さらに成長していく姿を観察することができた。ただ、30分のコンサートは同席した保育者にとって適切な時間であったが、未就学児にとっては短すぎると感じたり長すぎると感じたりとばらつきが認められた。この点に関しては学生に対する指導法の課題である。

キーワード コンサート、演奏活動、未就学児、地域連携

1. はじめに

保育所や幼稚園などの保育現場では、保育者が子ども達の表現力を引き出すために音楽を使って活動を展開している。保育者は、音を感じる喜びや楽しさを子ども達と共有できる力と豊かな心が必要不可欠である。豊かな感性、子ども達に音楽のすばらしさを伝え、演奏活動を援助するための基礎知識および目に見えて上達を感じられる演奏技術が不可欠である。子ども達の音楽活動として代表的なものに、うたう・きく・うつ・うごくがある。保育者が、これらの活動を引き出すために、子ども達に楽器を習得させる場面が多くみられる。

保育の「五領域」の中の一つである「表現」にあてはめて考えると、保育を学ぶ学生

が将来保育者になった時、幼児一人ひとりが自然に口ずさむ歌があることに気が付くと思われる。保育者とともに歌う歌でも、幼児が興味をもって歌うところやとても好きな歌詞などがあるだろう。そうした幼児の歌いたいという心を読み取るには、幼児の好きな音楽の特性、発声能力、好きなフレーズの特徴などについて専門的な学習が要求される。

本学の専門ゼミナールの地域連携プログラムでは学生の将来を考え、保育の専門家として明確な教育的意図をもって保育するために必要な技能と知識を学ぶ取り組みを行っている。学外演奏活動の3回目にあたる今回は、**B**幼保園に通園する未就学児に対してコンサートを行うことになった。本稿ではこの様な取り組みを行う学生の成果を評価したいと考え、コンサート参加者にアンケート調査を実施した。今後のコンサート活動に生かせるように参加者から得られたアンケート結果を分析し、さらにこの分析結果を考察した。

2. 目的

本研究は、専門ゼミナール地域連携プログラムにおける実践活動を通して、地域の対象者別に適したコンサート活動の成果を検証することを目的とする。さらに、コンサート活動の実践によって、参加学生の楽器演奏の実践力の向上を目指す。

3. 方法

(1) 実践学生の属性

A短期大学幼児保育学科、2年次専門ゼミナール地域連携プログラムを受講の学生17名(男性3名、女性14名)を実践学生とする。

(2) 実践活動の時期

2019年11月27日、11時から30分間実施した。

(3) 実践場所

三重県三重郡菟野町、**B**幼保園にて実践を行った。

(4) 調査対象者

B幼保園未就学児親子および、**B**幼保園の保育者を対象とした。

(5) 実践内容(コンサート)

実践内容を表1に示した。有志によるクラシック演奏「愛の挨拶」¹を1曲実施した。Cゼミ発表による「道化師のギャロップ」²の演奏を実施した。Dゼミ発表による「情熱大陸」³の演奏を実施した。Eゼミ発表による「天国と地獄」⁴の演奏を実施した。

次は日本の曲紹介で歌詞カード紙芝居とスクリーンの拡大表示とを見せながら歌詞を読み上げた。その後、歌詞カード紙芝居とスクリーンの拡大表示とを見せながら日本の曲メドレーを演奏し子ども達と一緒に歌った。

今回の試みとして、誕生月の年長児に体験コーナーとしてマリimbaでかえるの歌の演奏体験を行った。体験コーナーで練習する間、参加しない子ども達は手遊びを行い飽きさせない配慮を行った。その後、体験コーナーの子ども達がかえるの歌を披露した。

1 愛の挨拶 作品12 エドワード・エルガー

2 組曲「道化師」より作品26 第2曲「ギャロップ(道化師のギャロップ)」ドミトリー・カバレフスキー

3 情熱大陸 葉加瀬太郎

4 喜歌劇「天国と地獄」より序曲 ジャック・オッフエンバック

最後は、全学生による「パプリカ」の演奏と歌、ダンスを行った。子ども達全員が一体となってダンスに参加した。アンコールとして、全学生によるサザエさんの番組エンディング曲「サザエさん一家」の演奏と歌を披露した。

表1 コンサート内容

発表者	発表内容	使用楽器
有志	愛の挨拶 ¹	トランペット、クラリネット、マリンバ、ピアノ
Cゼミ	道化師のギャロップ ²	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
Dゼミ	情熱大陸 ³	マリンバ、ピアノ、鉄琴、シンバル
Eゼミ	天国と地獄 ⁴	マリンバ、ピアノ、鉄琴、木琴
全員	日本の曲メドレー	歌詞カード紙芝居
	①赤とんぼ	ピアノ、うた
	②どんぐりころころ	ピアノ、うた、ダンス
	③虫の声	ピアノ、うた、トライアングル、鈴、ギロ
④たき火	ピアノ、うた	
全員	体験コーナー（かえるの歌）	体験者は誕生月の年長児
	手遊び（アブラハムの子）	体験コーナーに参加しない子ども達
全員	パプリカ	マリンバ、ピアノ、カホン、うた、ダンス
全員	サザエさん一家	マリンバ、クラリネット、鍋、お玉杓子、うた

(6) 調査手順

学生によるコンサート（表1）を30分間行い、コンサート終了後に学生が年長児からアンケート用紙（表2）による聞き取り調査を行った。保育者へはアンケート用紙を園の責任者に委託し、任意にて回答を得ることにした。調査用紙は無記名の自己記述式とし、設問は選択式と自由記述式を設けた。回答後のアンケート用紙は後日お礼を兼ねて同園へ調査用紙の回収にうかがった。

(7) 調査内容

アンケート調査内容は、コンサート内容に関する質問11項目および属性に関する質問3項目の計14項目を設定した（表2）。

表2 アンケート調査内容

※ 該当の回答欄に、○印を付けてください。よろしくお願いします。

①ご参加のきっかけ	1. スタッフから 2. ポスターやチラシ 3. 知り合いから 4. その他（ ）
②コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった 2. （ 分ぐらいが良い）
③コンサートの雰囲気	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
④コンサートのプログラム（曲目）	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑤学生の動きや合唱	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑥歌いやすさ	1. 良かった 2. やや良かった 3. どちらでもない 4. やや悪かった 5. 悪かった
⑦壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った 2. やや役に立った 3. どちらでもない 4. やや役に立たなかった 5. 役に立たなかった
⑧壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった 2. やや見やすかった 3. どちらでもない 4. やや見にくかった 5. 見にくかった
⑨コンサートの満足度	1. 満足だった 2. やや満足だった 3. どちらでもない 4. やや不満だった 5. 不満だった
⑩次回の参加	1. 参加すると思う 2. 都合が合えば参加する

	3. どちらでもない 4. 参加しないと思う
--	------------------------

性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上
区分	1. 職員 2. 利用者

その他ご意見がございましたら、自由にお書きください

--

4. 結果と考察

(1) 未就学児に適したコンサート活動について

コンサート参加者のうち未就学児42名から回答を得ることができた。その結果を表3に示し、結果に対する考察を述べる。

表3 アンケート調査結果

基本属性（年長児）

質問内容	回答	比率(%)
①回答者の性別	1. 男性	33.3
	2. 女性	33.3
	3. 未記入	34.4

基本属性（保育者）

質問内容	回答	比率(%)
①回答者の性別	1. 男性	0
	2. 女性	100.0
②回答者の年齢層	1. 10代	0
	2. 20代	20.0
	3. 30代	20.0
	4. 40代	44.0
	5. 50代	16.0
	6. 60代	0
	7. 70代以上	0

コンサート内容

質問内容	回答	年長児の比率(%)	職員の比率(%)
②コンサート時間の長さ	1. ちょうど良かった	66.6	100
	2. 短かった	16.7	0
	3. 長かった	16.7	0
③コンサートの雰囲気	1. 良かった	97.6	68.0
	2. やや良かった	2.4	32.0
	3. どちらでもない	0	0
	4. やや悪かった	0	0
	5. 悪かった	0	0
④コンサートのプログラム (曲目)	1. 良かった	88.1	68.0
	2. やや良かった	9.5	28.0
	3. どちらでもない	0	0
	4. やや悪かった	2.4	4.0
	5. 悪かった	0	0

⑤学生の動きや合唱	1. 良かった	97.2	52.0
	2. やや良かった	2.8	44.0
	3. どちらでもない	0	4.0
	4. やや悪かった	0	0
	5. 悪かった	0	0
⑥歌いやすさ	1. 良かった	88.1	54.2
	2. やや良かった	2.4	45.8
	3. どちらでもない	7.1	0
	4. やや悪かった	2.4	0
	5. 悪かった	0	0
⑦壁に張った歌詞は役に立った	1. 役に立った	71.4	64.0
	2. やや役に立った	14.3	36.0
	3. どちらでもない	9.5	0
	4. やや役に立たなかった	4.8	0
	5. 役に立たなかった	0	0
⑧壁に張った歌詞の見やすさ	1. 見やすかった	81.0	68.0
	2. やや見やすかった	14.3	32.0
	3. どちらでもない	0	0
	4. やや見にくかった	4.8	0
	5. 見にくかった	0	0
⑨コンサートの満足度	1. 満足だった	97.6	84.0
	2. やや満足だった	0	12.0
	3. どちらでもない	2.4	4.0
	4. やや不満だった	0	0
	5. 不満だった	0	0
⑩次回の参加	1. 参加すると思う	88.9	59.1
	2. 都合が合えば参加する	5.6	40.9
	3. どちらでもない	5.6	0
	4. 参加しないと思う	0	0

基本属性（未就学児）

① 回答者の性別

男性33.3%、女性33.3%、未記入34.3%であった。しかし、男女数はほぼ同数であると予想される。

基本属性（保育者）

①回答者の性別

男性0%、女性100.0%と、回答者のすべてが女性であった。

② 答者の年齢層

10代0%、20代20.0%、30代20.0%、40代44.0%、50代16.0%、60代0%、70代以上0%であった。40代が一番多い、その他の年齢層はまんべんなく分布している。

コンサートの内容

① 参加のきっかけ

今回は、園行事である誕生日会のイベントのため、全員参加である。

② コンサートの時間の長さ

職員は「ちょうど良かった」が100%と満足な結果となった。しかし、未就学児は「ちょうど良かった」が66.7%、「短かった」が16.7%、「長かった」が16.7%であった。対象が未就学児であることを考え、コンサート時間を30分の目安とした。とても楽しかったと感じている未就学児は短く感じたようである。それに対して知っている曲があまりなかったと回答した未就学児は今回のコンサートがやや退屈に感じたためであると予想される。

③ コンサートの雰囲気

未就学児の回答では、「良かった」97.6%、「やや良かった」2.4%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。保育者の回答では、「良かった」68.0%、「やや良かった」32.0%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

コンサートの前半に有名なクラシックナンバーを入れ、音楽を傾聴する環境づくりに努めた。これによってコンサートの雰囲気をつくることができたと思われる。後半には、子ども達が知っている日本の曲を4曲メドレーで演奏した。その際、各曲のイメージを膨らませるために、図1に示したように歌詞カード紙芝居にし、演奏の前に学生の朗読によって歌詞を紹介しその時の情景をイメージしやすくなる雰囲気づくりに工夫を凝らした。これらの取り組みによって、未就学児のほとんどが「良かった」との回答が得られたと推測できた。ただ、未就学児より保育者の評価はやや厳しい評価結果となった。

図1 歌詞カード紙芝居



④ コンサートのプログラム（曲目）

未就学児の回答では、「良かった」88.1%、「やや良かった」9.5%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」2.4%、「悪かった」0%であった。保育者の回答では、「良かった」68.0%、「やや良かった」28.0%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」4.0%、「悪かった」0%であった。

曲目については、上記の「コンサートの雰囲気」でも述べたが、コンサートの前半には有名なクラシック曲、中盤には未就学児が知っていると思われる日本の曲メドレー、後半には体を動かして一緒に楽しめるポピュラーな曲を選んだ。この選曲によって未就学児は、コンサート中に一緒に踊ったことで楽しんでもらえたのではないかと考える。ただ、未就学児より保育者の評価はやや厳しい評価結果となった。

⑤ 実践した学生の動きや合唱

未就学児の回答では、「良かった」97.2%、「やや良かった」2.8%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。保育者の回答では、「良かった」52.0%、「やや良かった」44.0%、「どちらでもない」4.0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

この結果から3回目のコンサートになり以前よりも学生の動きがよくなったが、専門職である保育者の評価は厳しいと思われる。

⑥ 歌いやすさ

未就学児の回答では、「良かった」88.1%、「やや良かった」2.4%、「どちらでもない」7.1%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。保育者の回答では、「良かった」54.2%、「やや良かった」45.8%、「どちらでもない」0%、「やや悪かった」0%、「悪かった」0%であった。

未就学児が歌いやすいように日本の曲を選曲して工夫を凝らしたつもりではあったが、職員の立場からみた評価ではやや不十分ではないかと思われた。

⑦ 壁に張った歌詞は役に立った

未就学児の回答では、「役に立った」71.4%、「やや役に立った」14.3%、「どちらでもない」9.5%、「やや役に立たなかった」4.8%、「役に立たなかった」0%であった。保育者の回答では、「役に立った」64.0%、「やや役に立った」36.0%、「どちらでもない」0%、「やや役に立たなかった」0%、「役に立たなかった」0%であった。

この質問は、「歌うのに役に立った」場合と、「イメージするのに役に立った」場合の2通りの捉え方が考えられた。そのため、どちらの場合を想定して回答が得られたのかわからないが、おおよそは役に立ったと解釈できる。

⑧ 壁に張った歌詞の見やすさ

未就学児の回答では、「見やすかった」81.0%、「やや見やすかった」14.3%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」4.8%、「見にくかった」0%であった。保育者の回答では、「見やすかった」68.0%、「やや見やすかった」32.0%、「どちらでもない」0%、「やや見にくかった」0%、「見にくかった」0%であった。

3回のコンサートの中で一番大きな会場のため表示画面の大きさが十分であった。学生手作りの歌詞カードと歌詞がよく見えるようにその画像を大きなスクリーンに映したが、それらを正面に設置したため、角度によっては見えなかった場合も考えられた。

⑨ コンサートの満足度

未就学児の回答では、「満足だった」97.6%、「やや満足だった」0.0%、「どちらでもない」2.4%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。保育者の回答では、「満足だった」84.0%、「やや満足だった」12.0%、「どちらでもない」4.0%、「やや不満だった」0%、「不満だった」0%であった。

「満足だった」「やや満足だった」の回答が得られたのは、未就学児97.6%、職員96.0%といずれもほぼ満足してもらえたコンサートになったと考える。

⑩ 次回の参加

利用者のみ回答では、「参加すると思う」88.9%、「都合が合えば参加する」5.6%、「どちらでもない」5.6%、「参加しないと思う」0%であった。保育者の回答では、「参

加すると思う」59.1%、「都合が合えば参加する」40.9%、「どちらでもない」0%、「参加しないと思う」0%であった。

今後は現場で参加者の様々な反応を感じながら、学べる実践活動を積み重ねることが必要であると思われる。

(2) コンサート活動の内省

コンサート終了後、参加学生はコンサートの映像をみながらリフレクションシートをもとに振り返り活動を実施した。リフレクションシートの質問項目は表4に示した。リフレクションシートの振り返りをもとに、学生の実践力および保育者としての資質向上について述べる。

表4 リフレクションシート内容

質問内容	回答	全体の比率(%)
①選曲や内容の企画	1. 参加した	60.0
	2. やや参加した	30.0
	3. あまり参加しなかった	10.0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
②準備作業や練習	1. 参加した	80.0
	2. やや参加した	20.0
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
③当日のセッティング	1. 参加した	68.8
	2. やや参加した	31.3
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
④当日の発表や協力	1. 参加した	81.3
	2. やや参加した	18.8
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
⑤当日の片づけ	1. 参加した	81.3
	2. やや参加した	18.8
	3. あまり参加しなかった	0
	4. 参加しなかった	0
	5. その他	0
⑥今後も参加したいか	1. 参加したい	25.0
	2. やや参加したい	20.0
	3. どちらでもない	50.0
	4. あまり参加したくない	5.0
	5. 参加したくない	0

⑦この経験が現場で 役立つと思うか	1. 役立つと思う	50.0
	2. やや役立つと思う	50.0
	3. どちらでもない	0
	4. あまり役立つと思わない	0
	5. 役立つと思わない	0

① 選曲や内容の企画

「参加した」60.0%、「やや参加した」30.0%、「あまり参加しなかった」10.0%の回答が得られた。おおよその学生が選曲等企画の段階からしっかり参加できている一方で、この活動に消極的になっている学生がいることがわかった。

この企画に関する自由記述では、「ゼミのみんなで協力をして考えることができた」「皆が知っている曲を考えるのは難しかったけど頑張って考えた」「なかなか体験出来ないことができたのが楽しかった」等の記述がみられた。これらの記述から、学生が対象者のことを想像して楽しんでもらえる内容をゼミ内で協力して考えられるようになったことが捉えられた。

② 準備作業や練習

「参加した」80.0%、「やや参加した」20.0%の回答が得られた。おおよその学生は準備作業や練習を十分に行い、本番に備えたものと思われる。

自由記述において、具体的にどのように準備や練習をしたのか実態をとらえることができた。「自宅でYoutubeを見た」「手遊びの練習をした」「ゼミでの練習に参加しました」「練習は用事があつたりしてできない子がいて上手くできなかったけど、当日のリハがきちんとできたので良かった」等の記述がみられた。この記述からこれまでの経験に基づき本番に向けてどの程度の練習が必要なのか、学生自身が考え準備した様子が読み取れる。

③ 当日のセッティング

「参加した」68.8%、「やや参加した」31.3%の回答が得られた。ほとんどの学生は自主的に準備をしていたが、一部の学生は積極的に動けなかったことが見て取れた。

自由記述では、「ゼミごとに前もってセッティングの紙を書いておいたら、もっとスムーズだったかなと思いました」という問題点とその改善に対する気づきが認められた。学生自ら課題を見出すことができるようになった。

④ 当日の発表や協力

「参加した」81.3%、「やや参加した」18.8%の回答が得られた。ほとんどの学生は当日の発表や協力を悔いが残ることはなかったようであった。

自由記述では、「良かった」とする内容だけでなく、反省の言葉を拾うことができた。この様に気づきが芽生えてきことは、保育の現場に出た時に大いに役立つと考えられる。

⑤ 当日の片づけ

「参加した」81.3%、「やや参加した」18.8%の回答が得られた。ほとんどの学生は自主的に片づけをすることができたが、一部の学生は積極的に動けなかったことが見て取れた。

自由記述にあるように、ほとんどの学生は「解体、収納、運ぶことを出来る限りするようにした」、「まだ片付けていない所を積極的に片付けました」と積極的に行動してい

た。さらにこの時、問題意識を持っている学生は「ゼミごとに前もってセッティングの紙を書いておいたら、もっとスムーズだったかなと思いました」や「準備の時にやったものはできるけど、片付けは何をしたら良いのかが分かってない子がいて、自分がやったものが終わったら立ちっぱの子がいたから、私が指示したら動く子がいたから、もう少し考えて動いてほしかった」と準備も含めて片付けの改善点を考えており、学生のイベントに対する意識の成長が認められた。

⑥ 今後も参加したいか

「参加したい」25.0%、「やや参加したい」20.0%、「どちらでもない」50.0%、「やや参加したくない」5.0%の回答が得られた。学生の半数近くは参加したいと考えているが、半数の学生は積極的に参加したくないと思っていることが見て取れた。

⑦ 現場で役に立つと思うか

「役に立つ」50.0%、「やや役に立つ」50.0%の回答が得られた。全ての学生はこの様に今回の経験が現場で役に立つと思っていると思われる。

自由記述において、これらの経験は将来、現場の園で生活発表会等の企画・運営の役に立つと思われた。

5. まとめ

(1) B幼保園を利用する未就学児

未就学児がコンサートを楽しめるように、コンサート時間、選曲、曲順に配慮してプログラムの検討を行った。さらに、子ども達がコンサートを受け身になって音楽を聴くだけでなく、参加型のコンサートにし自由に身体全体で音楽を楽しめるように設定した。

この環境設定により、30分のコンサートを各々のペースで楽しむことができたと考えられる。しかしながら、今回は、未就学児からの意見でコンサートを短いと受け止めたり、長いと受け止めていた。実習を行う幼保園では事前に園で歌っている曲に基づきプログラムを組み立てたが、子ども達に喜んでもらえるプログラム作りの難しさを感じた。

(2) 学外コンサートからの学び

幼児向けのコンサートプログラムを考えるにあたって、大切にしていきたい事がある。日本では古くから伝わる伝統文化があるように、歌い継がれている日本の歌というものがある。その中は様々な分類で分かれているが、幼児を主対象としての内容のため季節を感じ、かつ古くから歌い継がれる唱歌や童謡の中から選ぶことが大切である。

流行歌はリズムやテンポが優先される曲が多い中、童謡や唱歌は歌詩の意味を楽しみたい。つまり言葉が理解されてメロディが存在し、その上で演奏の大切さを感じる曲が多くみられる。日本の懐かしい風景、その時代の暮らしと深い関りがある唱歌や童謡を演奏し、歌詞の内容を幼少期の子どもたちへ伝えていく為に、学生自身で歌詞の内容を絵で表現し、紙芝居を作成した。歌詞の内容の理解を紙芝居にする事によって達成し、続いて学生の生演奏にのせて学生と子どもたちが一体となって歌う。日本人の心から忘れ去られようとしている大切なものを音楽によって歌い継がれていければと願う。

参考文献

- (1) 相浦雅子・大元千種. 保育における行事に関する調査(1) : 生活発表会について. 日本保育学会大会研究論文集, 42, 350-351.(1989)